

種の概要

北海道南部から九州に分布。内湾の潮間帯下部から潮下帯の砂泥底に生息する。殻長15mm程度。殻は非常に薄くて軽く、よく膨らみ円筒形。靱帯は両殻の間に埋もれ、殻頂の後から背縁に沿って長く伸びる。殻表は光沢のある褐色のフィルム状の殻皮に覆われ、殻皮は殻腹を越えて伸び、生時は殻が少し開いてそこに縫い合わさっているが、死殻では垂れ下がる。

主要な選定理由

人為性			生息環境の特殊性		学術性		
個体数激減	分布域に影響	営利目的捕獲	特殊生息環境	地域的孤立	分布が極限	分布の限界	希少
			○	○			○

県内分布

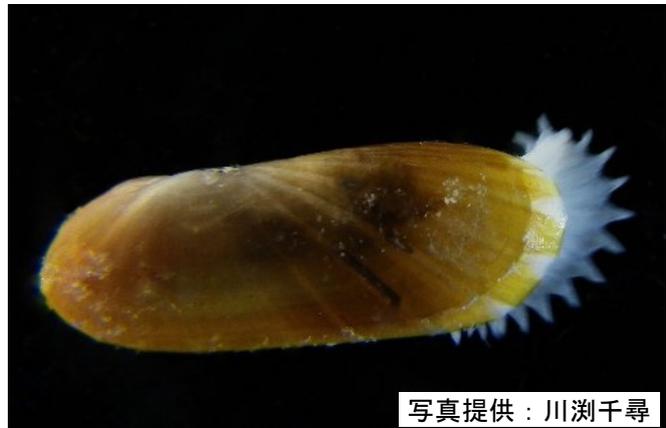
洲本市、淡路市

県内における生息状況及びその他特記事項

新規追加種。淡路島中部の内湾に面した干潟潮間帯下部のアマモ場周辺泥底より比較的多くの生貝が得られている。また、淡路島北部の東岸でも生貝が確認されている。

保護上の留意点

数あるアマモ場においても淡路島の局所的な場所でのみ産出する。本種特有の底床質や潮流などの微環境を要求するものと考えられることから、現状では既知産地の保全・維持に努め、他のアマモ場においても生息が見込まれることから、消失させない配慮が必要である。



写真提供：川淵千尋



写真提供：川淵千尋

【執筆者】 川淵千尋